

◇ 基礎学力の定着を図る		各部各学年	具体的取り組み	評価指標 実施状況 (今年度の振り返り)	評価	次年度への展望	学校評議員 学校関係評価委員の提言
1	・学校設定科目ブラッシュアップの成功 (学力向上プロジェクト委員会)	学力向上委員会	基礎学力の向上を図るために数学、英語、国語の基礎的な分野の復習をテスト形式で行う。学習内容を10級から1級までの10段階に設定し、7割以上の得点で昇級させる。	各学期のブラッシュアップ1級取得者数40人以上を目標とする。1学期実施したBU数学では、52人が1級を取得した。	B	対象教科を数学・英語に絞り、基礎学力が定着するよう教材の精選に努める。	●基礎学力定着のための努力がなされている。
		1学年	小中学校の学習内容の復習により、基礎学力の定着を図る。	1級10名、6級以上全員合格を目標としている。現在6級以下が139名。	B	全員の6級以上合格	
		2学年	マナトレ数・英挑戦編 漢字検定を全員に受検させる。	数学1級全員合格(8割の得点)を目標にスタート。213名中3級合格207名で、夏休みに4級以下のまとめと3級の不合格者、合わせて7名について指名補習を実施。2級合格49名、1級合格44名で、2級・1級不合格者には課題に取り組ませた。10月より漢検合格者70名を目標に、漢検対策取り組み、2級5名、準2級62名、3級145名が受験した。11月からは英語のマナトレに取り組んでいる。	A	全員が漢字検定、英語検定、数学検定などのどれか1つは準2級以上に合格する	●生徒のニーズに合わせた授業がなされている。
2	・授業規律の工夫と徹底 (授業規律週間の見直し)	生徒指導部	年間を通して授業規律週間であるのと同様の指導を継続する。	1週間の指導対象者が0になることを目標としていたが、一週間で平均3名の指導対象者が出ている。	B	授業規律週間を年間通したのものと、新しいシステムで行う。	
		1学年	授業の学年巡回指導 授業の始めと終わりの挨拶指導を実施する。	私語0 全員が声を出すことを目標としている。11月の指導週間で1名の違反者(3回注意)が出ている。	B	学年での巡回を当番制で実施	
		2学年	授業の学年巡回指導 授業の始めと終わりの挨拶指導を実施する。	チェックされる者が0となることを目標としている。チェックは2回までなら呼び出し指導はないと安易に流れる生徒がいるので、11月の授業規律週間からは、1回でもチェックを受けると、直ぐに報告に来るよう指導している。今のところ3回チェックされた者は0名。	A	授業規律でチェックされる者が0名	●授業はとて大切である。すべての授業の成立させて欲しい。
		3学年	授業の学年巡回指導 授業の始めと終わりの挨拶指導を実施する。	私語0 全員が声を出すことを目指している。11月の規律週間の違反者は3名である。	B	規律週間の違反者0を目指す	
3	・評価規準見直し (各教科平常点・課題点の見直し)	教務部	シラバスを作成し、評価の方法を明確にする。また、評価に関連する教務規定の見直しも行う。	シラバスを作成し、5月中旬に実施される中間考査までに校内サーバ上で常時閲覧できるように整備した。効果的な使用方法について更なる検討が必要である。また、2学期末までに教務規定の改定も行う。	B	シラバスの作成方法について、根本的な活用方法も含め更なる検討が必要である。教務規定は予定通り改定された。	
4	・各種補習の充実(継続的な成績下位者・上位者の指名補習の実施)	1学年	成績下位者の指名補習を実施する。	考査点30点未満0名を目標としている。各教科で成績下位者の指名補習を実施。	B	考査で得点をとるための課題の設定	
		2学年	成績下位者の指名補習 数学I A・ピアノ希望者補習を実施する。	考査点30点未満・欠点者0名を目標としている。成績不審者は課題や指名補習を実施。模試偏差値50以上20名を目標に補習を実施。7月の進研模試・進路マップでは、延べ27名・4名の者が偏差値50を超えた。	A	欠点者0名。各回の模試で全国偏差値50を超える者が0名以上	●さらに生徒の意欲を高めて欲しい。
		3学年	金曜に英単語の週末課題を与え、水曜のSHRで小テストを実施する。	合格点60%以上を目標とし、計画通り実施できているが、合格点60%以上に満たない生徒が特定化してきた。	C	不合格者常連の解消	
◇ 身だしなみを正させる		各部各学年	具体的取り組み	評価指標 実施状況 (今年度の振り返り)	評価	次年度への展望	学校評議員 学校関係評価委員の提言
5	・身だしなみの指導の工夫と徹底 (服装強化指導週間)	生徒指導部	正しい制服の着こなし週間や授業規律週間で、指導項目を見直すなどして、職員の見直しを図る。	正しい制服の着こなし週間や授業規律週間を統一し、服装指導週間は年中同じ状態で行えるようにする。2学期より1ヶ月に1回2週間連続で行うこととし、さらに検証を重ねていく。1日平均の指導対象者(チェック項目が3つ以上)の者は2人程度におさまる。さらに1日3項目以上のチェックをついたことが、2回以上になった生徒は現在ひとりだけである。	A	授業規律週間にも服装指導週間と同様にカード制を実施したり、教員の負担が大きいなりにすぎないよう配慮し、服装指導は年間を通して実施していく。	●さらにマナー・規範意識の向上に取り組んでほしい。
		1学年	SHR、学年集会での服装指導の強化する。	服装指導強化週間中の違反者0を目標としている。指導週間で3名の違反者が出た。	B	朝のSHRでの服装の確認の習慣化	
		2学年	化粧・カーコンタ外も含めポイント制で指導する。	指導が4回以上となるものが10人以内となるのを目標としている。10月の強化週間から、今のところ指導4回以上は0人。	A	指導が4回以上となる者が0名	●生徒指導強化週間として評価できる。
		3学年	いつでも面接試験に臨める頭髪・服装する。	頭髪・服装違反者0名を目標。頭髪・服装違反者に対し、即座に改めさせる指導ができていく。	B	違反者に対するより厳しい指導	
6	・意思統一が図れた指導 (ポイント制・カード制指導等の工夫と実施)	生徒指導部	カード制による服装指導を行う。指導回数による段階指導を行う。	年間のカードを切られる枚数を各学年20枚以内とし、切られる回数の最も多いものが2回以内であること。実際に実施すると、1日平均で6名程度がカードを切られているが、3回の指導で、生徒指導部指導になったものはない。	B	期間で行っていた指導を年間通したものと、カード制を実施したものとを比較し、指導を受けた者も一定の期間指導がなければ救済措置が虎環のような方法を考えて、新しいシステム方法にする。	
		1学年	服装指導のカード制を強化する。	制服の着崩し0名を目標としている。現在着崩している生徒はいない。	A	朝のSHRでの服装の確認の習慣化	●今後も継続して欲しい。
		2学年	頭髪指導のカード制を強化する。	黒髪指導0名・制服の着崩し0名を目標としている。チェックされる者は、ずいぶん減ってきた。現在指導4回以上は0名。	A	指導が4回以上となる者が0名	
		3学年	服装指導のカード制を強化する。	制服の着崩し0名を目標。現時点で明らかに制服を着崩している生徒はいない。	A	反省文指導の継続	
◇ 登下校のマナーの改善を図る		各部各学年	具体的取り組み	評価指標 実施状況 (今年度の振り返り)	評価	次年度への展望	学校評議員 学校関係評価委員の提言
7	・登下校の指導の工夫と徹底 (深江駅～学校までの立ち番指導の確立と徹底)	生徒指導部	登下校時の立ち番指導を行う。カインズ前、43号線南側、深江駅前の3箇所のポイントを重点的に指導を行う。	登下校に関する苦情が0になること。2学期より深江駅前とカインズホーム前で下校指導を行っている。重要ポイントを2箇所絞った。	A	苦情数は減少、次年度も継続して立ち番指導を行う。	●下校指導をもっとすれば評価がある。
8	・深江駅周辺の巡回指導の実施	生徒指導部	放課後の深江駅前の立ち番指導を時間を区切って行う。	登下校に関する苦情が0になること。深江駅前で下校指導をはじめ、駅前でのむろする苦情はなくなった。	A	苦情数0を目指して立ち番指導を継続していく。	

◇ 医療・看護・保育類型を成功させる(一期生の進路保証をする)	各部各学年	具体的取り組み	評価指標実施状況(今年度の振り返り)	評価 次年度への展望	学校評議員 学校関係評価委員の提言
9 ・高大連携の充実と積極的な大学見学・体験授業の実施	進路指導部	近隣の大学における見学や体験授業を企画し、学年に働きかけ、生徒の意欲を喚起する。	事後アンケートで80%を目標としたが、事後のアンケートで83%の生徒が進学先を決めるのに役立ったといっている。	B 3月体験学習、2年夏季体験学習と企画を積極的に取り組んだ。	●生徒の興味・関心を高めるのに効果的である。
	2学年	体験学習やオープンキャンパス参加を推進する。	夏季体験学習で、進学希望者は全員、少なくとも1大学は体験。大学体験者は、延べ275名。	A 進学希望者は全員積極的にオープンキャンパスを体験	
10 ・類型における教育活動(実習)の充実(類型推進プロジェクト委員会)	教務部	平成25年度入学生教育課程の編成の中で、生徒の進路希望や実態に沿った教育課程編成の見直しを行う。	1学期末までに新教育課程を決定する。新教育課程の完全実施に向けて、週当たりの時間を増加した。	B 平成25年度入学生から人文学、理系、保育類型、医療看護類型の4類型とした。クラス編成の実態などについての検討が必要である。	
11 ・計画的・継続的なキャリア教育の確立と実施	進路指導部	学年と連携をはかりながら、生徒の実態に応じたキャリア教育の流れを確立していく。	1学期中に全体の流れや各学年の計画書を作成し、取り掛かった。	B 毎週の進路指導部会を通じ連携を強化した。	
	2学年	HR・面談(ソート)を活用してキャリア教育を充実させる。	進路で未定者・フリーター0名を目標に指導。現在、大学進学希望134名、専門学校進学希望53名、就職・公務員希望24名。	A 全員が進路実現に向けて具体的な計画を立て実行する	
12 ・指定校推薦の活用と補習の充実	進路指導部	学年・生徒への積極的な情報提供に励み、指定校の有効活用と実態に応じた補習を実施するよう教科・学年の橋渡しをする。	100%指定校校を活用することを目標とし、指定校推薦枠を有効に活用すべく、学年と相談して3回募集を行った。学年と協議して実態に応じた計画を立案した。	B 今年は学年とよく連携して3回選考会議を持ち、例年よりも多くの生徒を指定校に送り込んだ。	
	2学年	数学ⅠA・ピアノ希望者補習する。	2年次から積極的に指定校の有効活用をはじめとする進路情報を生徒に提供する。模試全国偏差値50以上5名を目標に補習を実施。7月進研模試で偏差値50以上は、延べ3名。	A 指定校を含め全員が進路先を決定し合格を目指して積極的に補習を受ける	
	3学年	生徒・保護者との面談を重ねた上で、教師側がイニシアティブを取り、指定校推薦枠を上手く活用する。	指定校推薦枠の90%活用を目標とし、指定校推薦枠を昨年度以上に有効に、多く活用できた。	B 推薦枠のさらなる有効活用を図る	
◇ 就職希望者を全員就職させる	各部各学年	具体的取り組み	評価指標実施状況(今年度の振り返り)	評価 次年度への展望	学校評議員 学校関係評価委員の提言
13 ・面接指導の徹底と継続指導の確立	進路指導部	学年団と連携し、継続的な指導を行いながら、生徒が自信を持って入社試験に臨めるようにする。	9月時点で80%以上の決定数を確保することを目標としたが、学年団と協力して就職登録を行った生徒については10月末時点で80%以上の決定数を確保した。	A 学年とよく連携して学校からの特選を希望する生徒には計画的に取り組む。	●教師の努力が進路実績に結びついている。 ●生徒の意識が高まり合格した生徒が増えた。
	2学年	TPOに合わせた言葉遣いの指導を強化する。	全員がオンとオフを意識し、TPOに合わせた言葉遣いができるよう折に触れ指導。	B 全員がTPOに応じた言葉遣いができ、入社試験で内定を得る	
	3学年	進路と連携を図り、個に応じた計画的指導の強化する。	アンケートによる生徒の満足度(自信)90%を目指す。進路とタイアップして、きめ細かい面接指導を行い生徒の満足度(自信)を高めることができています。	B 就職自己開拓者の指導強化	
14 ・就職者補習の計画的・継続的な実施	進路指導部	例年よりも早めにスタートさせた就職補習を、効果があがるように学年と連携をはかる。	PTAや管理職・校務運営委員に協力仰いで生徒の実態に応じた補習ができた。	A 学年団とよく連携出来て計画的に取り組む。学校給食希望者には良好な成果を収め	
	2学年	体験学習(インターシップ)の推進する。	夏季体験学習で、就職希望者全員が目標通りインターシップを体験した。現在、就職希望者の早期補習を計画中。	A 全員が内定を目指して積極的に補習に参加する	
	3学年	月曜7限に就職希望者対象に「一般常識Drill」を使い指名補習を継続実施する。	小テスト不合格者に対して全員合格点が取れるまで補習を行った。	B より繰り返し行う工夫	
◇ 四年制大学・短大進学率のアップを図る	各部各学年	具体的取り組み	評価指標実施状況(今年度の振り返り)	評価 次年度への展望	学校評議員 学校関係評価委員の提言
15 ・進路ガイダンスの工夫・改善(専門学校からシフトさせる指導)	進路指導部	学年と連携をはかりながら、内容を工夫改善し、大学・短大を目指すように指導する。	大学・短大に学年全体の50%が進学することを目標としているが、10月末で3学年199名中全体の71人が大学、短大に進学を決めた。	B 学年団と連携して事前指導・事後指導に際しても本校の生徒の実態に即した指導を行なうことができた。	●大学入学だけでなく更にその先を考えた教育を実施して欲しい。
	1学年	大学への進学を中心とした進路ガイダンスの実施する。	4年制大学・短大進学希望者60%超を目標としている。国公立大学への進学を目指す生徒もいる。	B 大学進学を中心とした進路ガイダンスの実施	
	2学年	興味・関心のある関係学部の探究させる。	4年制大学・短大進学希望者60%超を目標に指導。現在、4年制大学・短大進学希望者134名(63.2%)。国公立大学への進学を目指す者が複数でできた。	B 行きたい大学を明確にし、大学進学率60%以上	
	3学年	進路ガイダンス後の担任の面談によるフォローアップする。	4年生大学・短大進学希望者60%超を目標とする。昨年度と比較して4年制大学・短大進学希望者の割合を高めることができた。希望者の割合を高めることができた。	B 専門学校に流さない指導強化	
16 ・指定校推薦の活用	進路指導部	受験してきた生徒のデータを元に進学戦略会議を行い、指定校校の有効活用を考える。	決定後、該当する保護者生徒のアンケートで80%以上の満足を得ることを目標とする。保護者生徒は決定者集いに全員出席した。	B 昨年からの模試受験パターンを決めて全員計画的に受験させ、データを整備しつつある。	
	3学年	生徒・保護者との面談を重ねた上で、指定校推薦枠を上手く活用する。	指定校推薦枠を昨年度より有効に活用すべく生徒・保護者・教師間で話し合いを重ねた。	B 保護者との連携の強化	
17 ・計画的・継続的な補習の実施	進路指導部	学期中の補習、休業期間の補習、大学での勉強会を通して、勉強するムードを醸成していく。	大学・短大の進学率50%以上を目指し、1学期は月曜日7限の全員補習等でムード作りを行った。	B 学力向上委員会と連携を取りながら、生徒の実態に応じた補習を提案していきたい。	●基礎学力向上の努力がなされている。
	1学年	英語・国語のSHRを利用した小テストの実施する。	クラスの平均合格率60%以上を目標としている。不合格者にはペナルティを課しているが、現在の合格率は50%。	B 小テストでのペナルティ提出率を100%にする	
	2学年	進路希望に応じて英・国・数(月)の補習する。	模試全国偏差値50以上20名を目標に指導。7月の進研模試では、延べ27名の者が偏差値50を超えた。11月から、2月の進研模試を目指し、英・国・数・社の希望者補習を実施。	B 各回の模試で全国偏差値50を超える者がのべ20名以上	
	3学年	大学進学希望者対象に月曜7限に英語の指名補習を実施する。また木曜7限に英語・国語を中心とした指名補習を実施する。	小テスト合格率90%以上を目標。月曜7限の補習に全員参加させることができた。	C 小テスト合格率を高める指導	

18	・積極的なオープンキャンパスへの参加	進路指導部	3年間の通じて、効果的にオープンキャンパス参加を組み込み、生徒に大学・短大進学への意欲を持たせる。	事後のアンケートで80%の生徒が満足することを目標とし、学期末や休業期間以外に効果的に行う様に流れを考えて行く。	B	3月体験学習、2年夏季体験学習と企画してきたが、更に充実させていきたい。	●さらに進路への意識を高めて欲しい。
		1学年	体験学習(オープンキャンパス)の積極的に企画し参加させる。	事後のアンケートで80%の生徒が満足させることを目標としている。2学期末に全員の大学見学を実施予定。	A	関関同立、甲龍産近レベルの大学見学会の実施	
		2学年	体験学習(オープンキャンパス)の積極的に企画し参加させる。	夏季体験学習で、大学進学希望者は全員、少なくとも2大学は体験。大学体験者は、延べ275名。	A	進学希望者は全員積極的にオープンキャンパスを体験	
		3学年	体験学習(オープンキャンパス)の積極的に企画し参加させる。	4年制大学・短大・専門学校進学希望者の多くがオープンキャンパスに参加した。	B	さらに参加数を増やしモチベーションを高める指導	
◇部活動の活性化を図る		各部各学年	具体的取り組み	評価指標 実施状況 (今年度の振り返り)	評価	次年度への展望	学校評議員 学校関係評価委員の提言
19	・1学年部活動全入制の成功(顧問と担任の連携指導)	生徒指導部	1学年の部活動の活動状況を定期的に把握し、部参加の指導を継続的に行う。	100%の加入状態を2学期中で続ける。1年生の入部率が67%となり、全体では57%の入部率となっている。昨年度より10%アップしている。	B	1年生クラブ全入制を継続。クラブ入部率を70%で維持する。顧問、生徒指導部、担任の連携の取れた指導を行う。	●部活動を通し活力ある学校生活を送って欲しい。
		1学年	生徒指導部との連携による部活動の活性化させる。	1学年の部活動加入率70%の維持を目標としている。現在の加入率は約60%。	B	年間通じての部活動加入率70%を目指す	
◇欠席・遅刻を減少させる		各部各学年	具体的取り組み	評価指標 実施状況 (今年度の振り返り)	評価	次年度への展望	学校評議員 学校関係評価委員の提言
20	・アルバイト承認の見直し(欠席・遅刻規定)	生徒指導部	保護者との面談等を通して、アルバイト承認の条件を精査する。	アルバイト承認者を各学年30人以内にする。11月14日現在で1年生17名、2年生30名、3年生38名、計85名の届出が出ている。	B	3学年で90名以内の承認者にする。保護者面談を定着させる。	●学校の様子をもっと保護者に知らせる必要がある。
		1学年	学業最優先の指導の実施する。	アルバイト希望者は担任面談、生徒指導部長面談を実施。	B	アルバイト承認基準の強化	
		2学年	保護者との連携を強化する。	新規希望者は、全員保護者に連絡確認。現在アルバイト承認者は51名。1学期欠点科目あり等で承認を取り消された者7名。	A	アルバイト許可取り消し0名	
		3学年	学業優先・進路実現優先の指導する。	進路が決するまで控えるよう保護者面談で訴え、数を減少させることができた。	A	より厳しい承認基準を設ける	
21	・家庭との連携強化(家庭連絡の徹底)	保健部	月1回、保健部会を開催し、生徒の情報交換および学年との連携を図る。	必要に応じ、担任・キャンパスカウンセラー・家庭・関係諸機関と連携を取り、心身への配慮が必要な生徒の早期発見に努められたか。	B	心身への配慮が必要な生徒について、組織的に支援できるような体制作りを行う。	●学校の様子をもっと保護者に知らせる必要がある。
		生徒指導部	面談週間を学期に1回は行い、家庭訪問も実施していく。	学校行事への参加者数の増加。文化祭、体育祭への保護者の参加者は増加している。面談は各学年こまめに行っているが、学校として面談週間を行うことは課題としていきたい。	B	家庭訪問のこまめな実施。面談も学期に1回は全員実施する。	
		1学年	学年通信の発行 無断遅刻・欠席生徒の保護者に電話連絡の徹底する。	毎月発行 連絡なしの遅刻・欠席者0を目標としている。現在100%の電話連絡を行っている。	A	連絡なしの遅刻・欠席0、100%の電話連絡	
		2学年	学年・学級通信の発行 無断遅刻・欠席生徒の保護者に電話連絡の徹底する。	学年通信を毎週発行(年35号)を目標。現在、29号まで発行。連絡なしの遅刻・欠席には、100%家庭へ電話連絡。	A	学年通信を毎週発行(年30号)	
		3学年	学年・学級通信の発行 無断遅刻・欠席生徒の保護者に電話連絡の徹底する。	毎週発行(年35号) 100%電話連絡を目標とする。進路指導部と協力して適宜進路情報を家庭に提供している。無断遅刻・欠席生徒全員に対し即座に電話連絡を行っている。	B	進路指導部と連携しての進路だよりの定期的発行	
		生徒指導部	遅刻者への指導方法を見直し、年間を通した指導を行う。	遅刻者数を各学年1クラス1人平均を割るようにする。2学期に入って遅刻者は増加傾向にあり、各クラス2人平均程度となり、各学年で遅刻指導への取り組みがみられる。	B	遅刻0週間の継続。遅刻指導の方法を生徒指導部も含めた改善を検討し、1日の遅刻者平均を1クラス1人以内にする。	
22	・遅刻0週間の改善と徹底	1学年	SHR、学年集会での遅刻指導の強化する。	遅刻0週間中の違反者0を目標としている。現在週間で1~2名の違反者が出ている。	B	遅刻者の面談指導100%を目指す	●更に続けて欲しい。
		2学年	遅刻カウント制を強化(3回で反省文指導・4回で保護者同席指導)する。	クラスで遅刻・欠席0の日を、年延べ180日を目標に指導。現在、延べ131日。	A	4回で保護者同伴の指導を受ける者0名	
		3学年	月間遅刻指導の実施する。	1日平均各クラス1人を目標にしている。0週間は達成できるが、それ以外の週の場合、毎日達成できていない。	B	年間通して1日クラス数以下	
		進路指導部	卒業生や職業人、社会の一線で活躍する方々を招いた講演会を企画し、キャリア教育に関心を持たせたい。	3年生は7月に卒業生と語る会を実施し、1年生は7・11月に職業人講演会を実施する。	B	3月1・2年に企業人を呼んで進路講演会を実施して、さらに関心を盛り上げたい。	
23	・キャリア教育の確立(目標や夢を持たせる)	1学年	HR・面談(シート)を活用してキャリア教育を充実させる。	進路変更者0名を目標としている。現在6名の進路変更者が出ている。	B	進路変更者10名以下を目指す	●進路変更者が減少しているのは望ましい。少数でもその検証を実施して欲しい。
		2学年	HR・面談(シート)を活用してキャリア教育を充実させる。	進路変更者0名を目標に、体験学習(インターシップ)・進路ガイダンス・面談週間等を実施した。現在、進路変更者2名。	B	進路変更者0名	
		3学年	HR・面談(シート)を活用してキャリア教育を充実させる。	進路変更者1名で、最小限に止めることがきている。	B	進路変更者0名目標	
		保健部	自らの健康課題に気づき、心身の健康の保持増進が図れる実践力を育てる。	保健部会を定期的に開催するとともに、来室した生徒について学年との情報交換を密に行っている。	B	今年度に引き続き、保健部会を定期的に開催するとともに、学年と密に生徒の情報交換を行う。	
24	・基本的な生活習慣の確立(欠席・遅刻指導と運動させた指導)	1学年	家庭との連絡を密にすることによる早期の情報収集する。	長期欠席者0(連続3日以上)を目標としている。現在対象者は1名。	B	定期的なカウンセリング、面接、家庭訪問の実施	●教師の努力が見受けられる。
		2学年	三者面談等家庭と連携した指導を強化する。	欠時オーバー0名を目標に、必要に応じ面談・カウンセリング・家庭訪問等を実施。現在、欠時オーバー1名。	A	欠時オーバー0名	
		3学年	個別指導の充実。面談の強化。学年内の情報の共有化する。	月間3日以上欠席者0名を目標とする。学年会で欠時数の多い生徒の情報を共有し、協力して欠時オーバーを防いでいる。	B	早めの手立てで欠時オーバー0名	
25	・分かる授業の工夫(積極的な研究授業の実施)	教務部	授業規律週間や公開授業週間に教員同士でもお互いの授業を参観しあうように呼びかける。また、大型ディスプレイなどの教育機器を積極的に用いた授業展開を取り入れる。	授業評価表(教員間用)を作成し、2学期からその運用を試行する。11月19日~22日の授業公開週間において実施する。	B	教員相互参観など新たな取り組みに挑戦できた。来年度は時間を絞って授業研究に取り組んでいきたい。	

◇ 掃除の徹底を図る	各部 各学年	具体的取り組み	評価指標 実施状況 (今年度の振り返り)	評価	次年度への展望	学校評議員 学校関係評価委員の提言
26・日々の清掃指導の徹底	総務部	HR教室のゴミ袋に学年とクラスを大きく書くことでごみを出すときの責任を自覚させる。	4月当初より分別が完全にできるようになり、特に学年・クラスを書くことをしなくなった。	B	監督者の人数と清掃区域の数の再検討が必要。現状では、当番を配置できない区域がある。	●以前汚かった廊下の隅等きれいになっている。
	1学年	ゴミがないことを当たり前にする指導を徹底する。	当番制による毎日の清掃の実施。学年集会でも定期的に指導。	B	当番制による毎日の清掃の実施	
	2学年	ゴミを出さない指導 ゴミを拾う指導を徹底する。	気持のよい教室づくりをめざし、担任指導のもと、当番制による毎日の清掃を実施。折々の学年集会・HRでも指導。	B	掃除当番任務不履行0名	
	3学年	ゴミを分別して捨てる。掃除当番の責任を果たさせる指導する。	掃除当番全員任務を果たす。掃除当番点呼表により任務不履行を続けさせない指導ができています。	B	任務不履行者に対し担任との連携徹底	
27・清掃コンテスト等の工夫	総務部	清掃箇所を設定し、清掃コンテストを実施する。	企画できていない。	D	教室により、積年の汚れや傷み具合に差があり公平な企画ができない。	
28・窓ガラス美化の工夫(重点化清掃の実施)	総務部	校舎内の清掃区域では、「毎週水曜日を窓ふきの日」とする。その他の日も監督者の判断で窓の清掃を実施する。	「窓ふきの日」の設定はできなかったが、清掃監督の職員へ、窓枠・窓のさんの清掃を依頼していた。	B	窓枠そのもの(サツ)を使いかけたのよいものに交換する。ガラスクリーナーを完備する必要がある。	
29・効果的な大掃除の工夫と実施	総務部	校舎内の清掃区域では、モップ・雑巾を使って床磨きをする。	ガラスクリーナーなどの汚れ落としの洗剤とスクレパーの準備と作業手順マニュアルを作り床面の汚れはほぼ解消した。	B	全校生徒が一斉に作業するには、監督者が不足している。全校一斉にこだわると難しい。	
30・美化委員の活用(ゴミ分別の徹底とポスター作成etc)	総務部	HR教室で使用するゴミ袋に学年とクラスを大きく書く。分別状況を確認する。	4月当初より分別が完全にできるようになり、特に学年・クラスを書くことをしなくなった。	B	年度当初から、全校生が集まる機会を知らせていければ、さらに良くなると思う。	
	生徒指導部	緑化委員による落ち葉清掃等の実施する。	ゴミ分別が徹底されていること、クリーン作戦等の地域へ参画する清掃活動は実施しているが、委員会を中心とした校内清掃活動を計画的に行うことは、まだ課題として残っている。	B	クリーン作戦の継続実施。緑化委員会を中心とした花箱運動を定例化する。	
◇ 積極的な情報発信を図る	各部 各学年	具体的取り組み	評価指標 実施状況 (今年度の振り返り)	評価	次年度への展望	学校評議員 学校関係評価委員の提言
31・HPの更新回数増	総務部	ブログを利用して日々の活動を発信する。	旅行中は毎日更新、月2回以上更新する。月に1回は確実に更新しており、各方面から記事を書けるようにブログ使用の研修会も行った。また、記事申請の用紙も作成し、IT機器に不慣れな人でも記事の申請が容易にできるように便宜を図っている。しかし、なかなか記事が集まらないのが現状である。	B	学校ホームページの刷新とでも情報発信できるように工夫する。各分掌、各クラブからの情報発信を望む	●PR活動は大切。今後も続けて欲しい。
	1学年	校外学習での情報公開する。	準備段階よりの情報公開を計画している。	B	準備段階よりの情報公開	
	2学年	修学旅行のブログ立ち上げる。	旅行中は毎日更新予定。	A	進路に関する情報を月2回以上更新する	
	3学年	進路に関する情報公開する。	高大連携講座、体験学習の情報公開。進路に関する新しい情報を随時公開している。	B	進路だよりによるタイムリーな情報提供	
32・学校だよりの充実と発刊数増	教頭	学校新聞をタイムリーに発行し、幼稚園、保育園、小学校、中学校、学校評議員、地元企業、自治会館、みなと銀行、郵便局、病院、市場等に配付する。	月に1回、関係機関に配布する。	B	学校新聞を定期的に発行し、本校の教育活動の周知に更なる努める。	●地道なPR活動が必要。
	進路指導部	進路だよりを作成して、積極的に情報発信に努める。	進路だよりを月1回発行することを目指す。学年集会にて話をしたり、学年通信に記事を記載する等、情報発信を工夫した。	B	今年は定期的な進路だより発刊までは至らなかった。しかし、2年学年通信に進路から寄稿する等ではできた。来年度は更に充実させたい。	
	保健部	生徒の健康課題等、実態に合わせた保健だよりを発行する。	問診票を記入させ、健康相談活動や個別保健指導により、心身の健康や自身の生活を見直させている。	B	本校生徒の健康状態の実態等を生徒保健委員会による保健だよりで作成することで全校生徒に発信する。	
33・公開授業週間の実施(各学期1回)	教務部	保護者や地域の方、中学校教員に参観をよびかけ、公開授業を各学期に1回ずつ実施する。	1回の公開授業週間に40人以上の参観者に来校していただけるように、様々な手段で公開期間を案内する。更なる努力が必要である。	C	働きかけが十分でなかったのか、目標の人数の参観者には来校いただけなかった。小中学校のオープンスクールにこちらから参加する姿勢を持ちたい。	
34・学校行事の充実(中学校と連携した内容の工夫)	行事検討委員会	行事検討委員会を開催し、次年度の行事を精選・改善する	来年度の行事について多方面から意見を集め、精選・改善している	B	行事検討委員員により、更に多くの情報を集める	
35・中高連携の強化(中高連絡協議会の充実と部活動連携の推進etc)	地域貢献事業	部活動を通して中学校との連携を図る。	夏季休業中に東灘チャレンジカップ(運動部の大会)を開催する。空手部で実施。	B	中学校との連携するクラブを増加させる。	●さらに中学校との連携深めて欲しい。
	総務部	昨年15中学校に参加してもらった。更に多くの中学校に参加してもらい、連携を強化する。	18中学校に参加してもらった。情報交換・連携も強化できた。	B	短時間なので進行を円滑にし、多くの情報交換ができるようにしたい。	
36・オープン、ハイスクールの充実	実行委員会	昨年度、教員23 保護者71 生徒480 計574名であった。今年は650名以上の参加を目指し、広報に努める。	応募者数が2日間のトータルで660名。当日 教員39 保護者91 生徒507 計639名であった。	B	中学生・保護者の評判が高いので維持に努める。	●オープンハイスクールでの頑張りが評価された。
	生徒指導部	体験授業・体験部活動の充実させる。	来場者数が2日間のトータルで650名以上。昨年より50名以上の増加。	B	体験授業・体験部活動を増加させる。	